

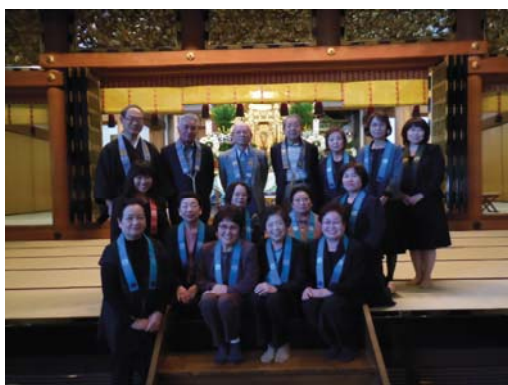
聞 ・ 聞 ・ 聞

発行責任者 浄土真宗本願寺派 正善寺 住職 酒井光義 平成 25 年 11 月 4 日
〒802-0045 北九州市小倉北区神岳二丁目 10 番 31 号 電話 093 (541) 2409 番

生きる力育む「とき・ところ」 死は終わりではない

昨年 11 月 11 日付、産経新聞朝刊の一面に、東日本大震災で親友のゆいちゃんを亡くした小学一年生の羽奈ちゃんの記事が掲載されていました。羽奈ちゃんは親友のゆいちゃんと、海岸から 1,5 キロ内陸にある同じ幼稚園に通っていました。その幼稚園を津波が襲い、園児 8 人、職員 1 人が、避難するために乗った送迎バスごと流されて亡くなりました。早退していた羽奈ちゃんは、海から遠く離れた病院にいて助かりました。震災後、小学生になった羽奈ちゃんは、毎週、幼稚園の献花台を訪れ、置かれたノートにメッセージを書き続けているそうです。「まるで亡くなったゆいちゃんが目の前にいて、話しているかのよう」だと、記者は綴っています。私が住職を務めるお寺では、わが子を亡くした母親が、毎日お墓参りに来られています。もう 1 年が過ぎました。私は、その姿を見守り続けることしかできませんが、お母さんはきっと「ここへ来ればわが子に会えるとの思いで来ずにはおれないのだと、私は感じてきました。住職として、多くの人の死と、その家族や周囲の人たちに会ってきました。予期せぬ別れであったり、つらい別れにも出会ってきました。それらの経験から私が学び感じてきたことは、「死んだら終わりではない」と仏教が説き続けてきたことが、その通りなんだということでした。「死んだら終わりではない」ことは、私の死ということと遺された方にとっても、その両方に言えることなのです。以前出会った詩に、小学 6 年生（当時）の中村良子さんが書いた「宿題」があります。良子さんのお母さんは若くして亡くなりましたが、学校の宿題で「お母さんの詩」が出されたのです。先生から、「つらい宿題だと思うけど、がんばって書いてきてね。お母さんの思い出としっかり向き合ってみて」と言われました。詩の一部ですが紹介します。がんばって がんばって 書いたけれど お母さんの詩は できなかつた 一行書いては なみだがあふれた 一行読んで は なみだが流れた 今日宿題はつらかつた 今までで いちばんつらい宿題だつた でも「お母さん」と いっぱい書いて お母さんに会えた 「お母さん」といっぱい呼んで お母さんと話せた 宿題をしている間 私にも お母さんがいた。また、ある時、こ門徒さんから、こんな質問を受けた事がありました。その方は連れ合いの方と二人でくらしていましたが連れ合いの方が先に亡くなり今家に一人で暮らしています。お仏壇に向かって昨日あったこと今日あったこと嬉しかったこともつらく悲しいことも時には愚痴や不満も話しかけるそうです。「それはいけませんか」というのが質問でした。「お家の中で何でも話しかけられる場所があつてよかつたですね」と私は答えました。今までは家の中で話しかける相手がいたのですが先立たれた後お仏壇に向かって話しかけるようになったというのです。お仏壇の前に座つた時阿弥陀様を見つめながら亡き夫に話しかけているのかもしれませんが。話しかけても決して返事が戻ってくるわけではありません。それでもいつでもずっと聞いてくれているのでしょくきっとどんなに日々支えられていることかと想像致します。仏教が「死」を通して「生」を考えることを示してきたからこそ、仏教が私に生きる力を与えてきたのではないかと思います。わが命を精いっぱい生きて行く為には時には亡き人に出会える「ところ」「とき」が必要なのです。その出会えるところやときは人それぞれです。その一つにお寺の本堂やお仏壇、あるいは儀礼があるとすれば、今を生きる私にとって宗教的空間や宗教の意義はとても大きく大切なものではないかと思うのです。 **宮本義宣**

鎮西別院参拝・ご門主様御親修 750回大遠忌と百周年記念納骨堂落慶法要の厳修



雅楽の音と共に教区内の僧侶多数が出動しました。



平成25年度分

報恩講の際ご進納ください。

- * 『お仏飯米』
- * 『門信徒護寺会費』
年間1口 金 3,000円以上
- * 『納骨所維持管理費』
管理費年間 金 3,000円

『位牌会』(いはいえ)のご案内

初めての試みです。有縁の門信徒の方々よりお預かりしました「ご位牌」や、古くなった仏具等の最後のお別れをし、焼却処分いたします。まだ処分するものがあつたら当日ご持参ください。一緒にお別れいたしましょう。

◎ 12月22日(日)

午後3時より 本堂にて お勤め
午後3時半より 境内にて 焼却開式
(保育園運動場にて点火します。)

『初御講』のご案内

昨年の11月から本年10月までの間で

往生された方 - 「初御講 - 特別追悼会」を下記の通りお勤めいたします。過去帳を持参しご参集下さい。精進の御齋もご接待させていただきます。おそろいでお参りください。

◎ 11月23日(土) 午前11時20分集合 11時30分開式

一階納骨所にて

準備の都合により、参加の有無をお知らせください。

ご 案 内

御 正 忌 報 恩 講 法 要

11月	21日(木)	22日(金)	23日(土)
昼 席	午後1時30分	午後1時30分	午後1時30分
			おとき 12時より

講師 (大分県宇佐市・崇福寺前住職)
本願寺派布教使 前 田 賢 聖 師

お寺からのお願いです

「お 磨 き」11月18日(月)

10:00より15:00 まで

報恩講を迎えるにあたり本堂の金仏具を磨き、納骨堂等のお掃除をします **昼食準備** **しています。沢山の方のお手伝い** 男性の方もお待ちしております。

正善寺かすみ草の会お磨きとあわせ開催します。お集まりください。

「お 齋 接 待」ご 案 内

正善寺の精進料理を

お召し上がり下さい。

11月23日(土) 正午より

《お齋券》をお持ちください

かすみ草の会の皆さんは 9時集合

来 年(26年) の 年 忌 法 要

()内は来年の対象年次数です。

- ・ 一 周 忌 (平成 25 年往生)
- ・ 三 回 忌 (平成 24 年往生)
- ・ 七 回 忌 (平成 20 年往生)
- ・ 十 三 回 忌 (平成 14 年往生)
- ・ 十 七 回 忌 (平成 10 年往生)
- ・ 二 十 五 回 忌 (平成 2 年往生)
- ・ 三 十 三 回 忌 (昭和 57 年往生)
- ・ 五 十 回 忌 (昭和 40 年往生)

小倉組行事 参 寺 参 り さんてらまいり

小倉組内の28寺で勤められる「報恩講法要」のうち、3ヶ所の寺院を訪ね、聴聞しようという企画です。各寺院にはお寺シールが準備しています。3箇所となったらその寺院に提出してください。まずは我がお寺から。お待ちしております。

ご懇志封筒について

この度より、法要へのご懇志につき、封筒を準備しましたのでご利用し、お供え下さい。氏名と住所を記入して受付に収め下さい。

行事ご案内【報恩講は浄土真宗門信徒の最も大切な法要】

第79回 おゆうぎかい

とき 12月7日【土】 9:30より
ところ 神岳保育園ホール

じよやのかね 除夜会

12月31日(火) 大晦日

午後11時より 午前1時まで

平成26年修正会

元旦 午前1時より(除夜会終了後)

一泊旅行の忘年会!!

1年間お世話になりました。今年もたくさんのお出遇いをいただきました。ありがたいことです。年の瀬のひと時を皆さんと共に過ごしたいと存じます。今年は泊りがけの楽しい忘年会。気軽にご参加ください。お待ちしております。盛り上げますよ!!

とき 12月15日(日)午後より出発

16日(月)夕刻に帰着

ところ 山口、滝部温泉(観光もあり)

会費 12,000円 当日集めます。

申し込み 11月23日までにお寺へ申込み

次回の法要のご案内

春季彼岸法要

【とき】 平成26年3月12日(水)昼席・13日(木)昼席・14日(金)昼席

【講師】 山口県下関市 本願寺派布教使 寺田教昭師

編集後記

11月、街路樹の木々もやわらかい光をうけて秋色に輝いています。きれいです。光を受けるとみな輝くのですね。ふとそんなことを想い秋の日を過ごしていま

す。長い間お寺のことに、心を配って下さっていた103歳のkさんがお浄土に還られました。いつも、私たちが何か困っていないかと心配をして下さっていました。お寺の階段に手すりをつけたらお参り下さる方々がすこしでも楽にお参りできるのではと、りっぱな手すりをつけて下さいました。長女がまだ赤ちゃんの頃、私はとても悩み苦しんでいたことがありました。長女をおんぶして、お寺の本堂にはいろいろとすると、本堂の中から小さな小さな声、そおーと、その声を聴くと、南無阿弥陀仏のお声でした。Kさんが涙をこぼしながら、手を合わせ、お念仏を称えていました。私は泣きながら、おんぶしている長女の耳にもkさんの南無阿弥陀仏のお声をいただきました。その時の光景、Kさんのお姿が私を今日の今日まで導いて下さっています。嬉しいときも悲しい時もどんな時も本堂の阿弥陀様の前に座ること。そのことを自らのお姿で教えて下さいました。お通夜の席に何うと、入り口にお優しい笑顔のkさんの遺影が飾られていました。じっと遺影を見つめている私の横にkさんの娘さまが寄り添って下さり、「この写真は住職さんと坊守さん、お二人の結婚式の時の写真なんです。母はこの写真をととても気に入っていて、遺影にと決めていたのです」と、ただただ涙がこぼれるばかりです。心も体も淋しさでいっぱいですが、kさんが導きあたためてくださった特等席があります。先に往かれた先輩方にあえます。阿弥陀様にあえます。

「御正忌報恩講」心をこめて精一杯勤めさせていただきます。仏様のお話にお心をかたむけられませんか、心よりお待ちしております。 称名